

「第 6 回抜山記念国際賞」の選考経過と受賞講演の報告
Report on the Sixth Nukiyama Memorial Award(NMA)

第 6 回抜山記念国際賞選考委員長 高田 保之 (九州大学)
The 6th NMA Committee Chair Yasuyuki TAKATA (Kyushu University)
e-mail: takata@mech.kyushu-u.ac.jp

1. はじめに

日本伝熱学会が創立 50 周年を記念して創設した抜山記念国際賞 (Nukiyama Memorial Award, 以下 NMA) は, 2022 年の本会総会において, 東京大学の塩見淳一郎教授に授与されました. 本来であれば, 授賞式直後に本報告を行うべきであったのですが, 受賞講演が 8 月に Cape Town で開催された第 17 回国際伝熱会議において挙行されたので, 本稿にて併せてご報告申し上げます.

2. NMA 委員会の構成と選考日程

選考委員会は, 3 名の日本人委員と 4 名の外国人委員から構成されます^[1]. 日本人の委員は 3 回の選考に従事し, 2 回目は副委員長, 3 回目は委員長を担当します. 外国人の委員は, 2 回の選考に従事します. 毎回, 日本人委員を 1 名, 外国人委員を 2 名新規に加えて委員会を構成します. 第 1 回から第 6 回の選考委員会の構成を表 1 に示します. 第 6 回の選考委員は, 日本からは小生の他, 須賀一彦先生 (副委員長, 大阪公立大), 小原拓先生 (東北大), 国外からは Zhuomin Zhang (Georgia Tech., 米国), Sung Jin Kim (KAIST, 韓国), Catherine Colin (Toulouse Inst. Fluid Mech., フランス), Janusz Szmyd (AGH Univ. Krakow, ポーランド) の 4 名でした. 次回 (第 7 回) では, 小生と米国, 韓国の 3 名の委員が退任し, 須賀先生が選考委員長, 小原先生が副委員長となり, 日本人 1 名と外国人 2 名の委員を補充することになります.

選考および贈賞の日程は概ね以下の通りです.
 2020 年 10 月 選考委員会構成
 2020 年 12 月 理事会による選考委員会の承認
 2021 年 6 月 1 日 公募開始
 2021 年 9 月 30 日 応募締切
 2021 年 10 月 選考委員会による評価および候補者の決定
 2021 年 12 月 理事会への報告および承認
 2022 年 5 月 19 日 第 59 回日本伝熱シンポジウム (岐阜) において授賞式
 2023 年 8 月 16 日 第 17 回国際伝熱会議 (IHTC-17, Cape Town) において受賞講演

3. 選考経過

今回の選考では, 世界各国から 10 名の応募がありました. いずれも優劣つけがたい優秀な候補者でありました. 選考方法は次の通りです.

選考委員が 100 点満点で, それぞれの候補者を評価します. その際, 選考委員長は評価に加わらず, 6 名の選考委員の合計点で順位付けをします. また, 選考委員ごとの偏りをなくすために, 素点での集計表とは別に各委員の平均点が 75 点となるように正規化した集計表も併せて作成しました. 幸いなことに集計結果は, 素点も正規化の場合も順位の入れ替わりはありませんでした. 特に上位 3 名の評価は非常に僅差で, どなたが受賞してもおかしくない状況でした. 選考委員会で最終候補

表 1 抜山記念国際賞選考委員会

Year	Japan			International Board Member									Award Lecture	
	Chair	Vice-Chair	Member											Cinferebce
2012	K. Kasagi	M. Monde	H. Yoshida	A. Bar-Cohen	US	P. Cheng	CN	G.P. Celata	IT	S. Kandlikar	US	IFHT2012	Nagasaki	
2014	M. Monde	H. Yoshida	K. Okazaki	G.P. Celata	IT	S. Kandlikar	US	J.S. Lee	KR	T.W.Simon	US	IHTC2014	Kyoto	
2016	H. Yoshida	K. Okazaki	S. Maruyama	J.S. Lee	KR	T.W.Simon	US	P. Stephan	DE	X. Zhang	CN	IFHT2016	Sendai	
2018	K. Okazaki	S. Maruyama	Y. Takata	P. Stephan	DE	X. Zhang	CN	J.R. Thome	CH	J.H. Lienhard	US	IHTC2018	Beijing	
2020	S. Maruyama	Y. Takata	K. Suga	J.R. Thome	CH	J.H. Lienhard	US	Z.M. Zhang	US	S.J. Kim	KR	ACTS2021	Fukuoka	
2022	Y. Takata	K. Suga	T. Ohara	Z.M. Zhang	US	S.J. Kim	KR	C. Colin	FR	J. Szmyd	PL	IHTC2022	Cape Town	

者を選定した後、高松副会長(当時)経由で本会理事事に推薦し、理事会において塩見先生を正式に受賞者として決定いたしました。

4. 授賞式と受賞記念講演

当初は授賞式も2022年にCape Townで開催予定の国際伝熱会議(IHTC-17)で行う予定だったのですが、コロナウィルスの影響で同会議が1年延期されてしまいました。授賞式を延期するのは間延びしていやだなと思いましたが、苦肉の策として授賞式は日本伝熱シンポジウムの総会(図1)で行うことにしました。



図1 総会(岐阜)での授賞式の様子
(写真右) 宗像会長から塩見教授に盾を贈呈



図2 IHTC-17のプログラムから



図3 受賞講演をする塩見教授

一方、受賞記念講演は国際学術賞に相応しい雰囲気で行いたいと考え、議長のJ. P. Meyer教授に頼んで1年後のIHTC-17の会場で開催することにいたしました。2014年のIHTC-15では、パレルセッションでの講演でしたが、今回は前回のIHTC-16と同様にプレナリーとして行うことになりました。次回のIHTCでもプレナリーでの受賞講演が継続できるようにしたいと考えています。

塩見先生の受賞講演は8月16日に行われました

(図2)。司会は選考副委員長の須賀先生が担当されました。塩見先生の講演と会場の様子を図3と4に示します。写真を提供してくれた九大の森昌司先生によりますと、非常に素晴らしい感銘深い講演だったそうです。また、講演の後も多数の質問を受けていたとのことでした。



図4 会場の様子(壇上中央は司会の須賀先生、右下は、平井会長、塩見先生、須賀先生)

5. おわりに

学術賞の価値は、その受賞者によって決まるといえます。NMAの受賞者も今回で6人目となりました。この賞は伝熱分野の学術賞としては後発ですが、歴代の受賞者^[2]が全員世界トップクラスの優れた研究者であること、また、Nukiyaという名の知名度にも助けられて、今や世界の伝熱コミュニティに広く認知された学術賞となりました。今回の選考でも、すべての応募者の優秀さを目の当たりにして、NMAの価値を改めて認識した次第です。

受賞者の塩見先生には、Review Paperの執筆という非常に重たい宿題が課されております。そう遠くない時期に、その優れた論文を拝読できるものと期待しております。

最後に、難しい選考にご尽力いただいた選考委員の皆様、特に小生に代わって受賞講演の司会をしてくださった須賀先生に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- [1] 岡崎健, 「第4回抜山記念国際賞」の経過と授賞報告, 57-241 (2018) 8-9.
- [2] 日本伝熱学会, “日本伝熱学会抜山記念国際賞”, <https://www.htsj.or.jp/nukiya>, (参照日 2023-09-13).